

ヤリヌメリ *Repomucenus huguenini* (Bleeker, 1859) (スズキ目・ネズツポ科) から得られたカサガタメダマイカリムシ *Phrioxcephalus umbellatus* Shiino, 1956 (カイアシ亜綱・管口目)

齋藤 暢宏・山田 和彦

Nobuhiro Saito and Kazuhiko Yamada:
A Record of *Phrioxcephalus umbellatus* Shiino, 1956 (Copepoda, Siphonostomatoida) Infected a New Host *Repomucenus huguenini* (Bleeker, 1859) (Perciformes, Callionymidae)

Abstract. A pennellid copepod, *Phrioxcephalus umbellatus* Shiino, 1956, infecting the Huguenin's dragonet, *Repomucenus huguenini* (Bleeker, 1859) (Perciformes, Callionymidae), is reported based on a single specimen from southern coast of Miura Peninsula, Sagami Sea, central Japan, North Pacific Ocean. The host fish was captured by the Bishamon commercial set net. This finding is the additional record of *P. umbellatus* from a new host fish.

三浦市の定置網漁獲物から眼にヒジキムシ科カイアシ類 (甲殻亜門・カイアシ亜綱・管口目) の寄生をうけたヤリヌメリ *Repomucenus huguenini* (Bleeker, 1859) (スズキ目・ネズツポ科) が採集された (図 1)。本魚種からのヒジキムシ類の報告はないため (長澤・上野, 2014), この寄生状況を観察し, 魚体から摘出して種同定を行った。体部分名称は椎野 (1965) に従った。観察した標本は, 国立科学博物館 (NSMT-Cr) に保管・管理されている。

Phrioxcephalus umbellatus Shiino, 1956

カサガタメダマイカリムシ

(図 2)

観察標本 NSMT-Cr 24231, 抱卵雌 (胴部長 6.4 mm), 2015 年 4 月 29 日, 毘沙門定置網 (丸共丸) (35° 08' 02" N, 139° 38' 58" E), 宿主ヤリヌメリ (標準体長 259.4 mm) 左眼。

記載 体は頭胸部, 頸部および胴部からなる。頭胸部前端には多分岐した antennary process (図 2 ant-pr) をもつ; 頭胸部突起 (図 2 cep-pr) は伸長しつつ多分岐し, 傘状に発達する; 吻部は突出しない。頸部は細く, 胴部の前腹隅に接続する; 頸部突起 (図 2 thx-pr) は樹枝状に分岐発達する。胴部は中央で括れて腹側へ湾曲する「カシューナッツ」型。螺旋状の卵嚢を胴部後方腹側に 1 対備える。尾肢を欠く。

宿主 ネズミゴチ *Repomucenus curviconis* (Valenciennes, 1837) (スズキ目・ネズツポ科), イソカサゴ *Scorpaenodes evides* (Jordan & Thompson, 1914) (同目・フサカサゴ科), ヒラメ *Paralichthys olivaceus* (Temminck & Schlegel, 1846), アラメガレイ *Tarphops oligolepis* (Bleeker, 1858) (カレイ目・ヒラメ科) からの報告がある (長澤・上野, 2014)。今回のヤリヌメリは新宿主。

寄生状況 露出部は頸部後半部と胴部および卵嚢で (図 1B), 頭胸部および頸部前半部は宿主の眼球水晶体内に穿入する。頸部突起で穿入部を宿主眼球内で支持し, 穿入部先端は水晶体奥部に達し, 頭胸部突起はこの奥部を貫き扁平に広がっていた。この寄生状況は, 椎野 (1965) に記載されるメダマイカリムシ *P. triangulus* Wilson, 1917 の知見に類似する。なお, 兵庫県香美町沖の調査では, 定置網によって 1 年間に漁獲されたヒラメ 748 個体中, カサガタメダマイカリムシの寄生を受けた魚体はわずか 5 個体 (寄生率 0.67%) と報告される (Ohtsuka *et al.*, 2007)。

分布 本邦の太平洋岸・日本海岸の両岸から報告される。タイプ産地は千葉県銚子沖および三重県尾鷲沖 (Shiino, 1956)。このほか本邦太平洋岸の神奈川県三浦市 (本報告), および日本海岸の兵庫県津居山沖 (Shiino, 1956)・香美町 (Shiino, 1956)・竹野 (Ohtsuka *et al.*, 2007); 長崎県対馬沖 (Ohtsuka *et al.*, 2007) から知られる。

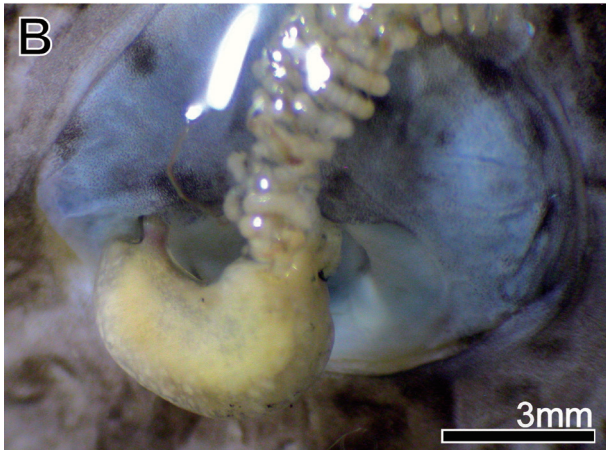


図 1. 宿主ヤリヌメリ *Repomucenus huguenini* (Bleeker, 1859) (標準体長 259.4 mm), 2015 年 4 月 29 日, 昆沙門定置網 (丸共丸). A, 背面図, 左眼にカサガタメダマイカリムシ *Phrioxocephalus umbellatus* Shiino, 1956 が寄生 (▲); B, カサガタメダマイカリムシ寄生部.

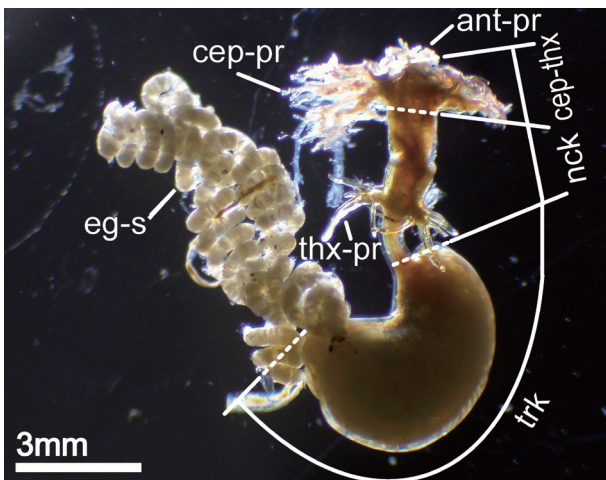


図 2. カサガタメダマイカリムシ *Phrioxocephalus umbellatus* Shiino, 1956. 抱卵雌 (胴部長 6.4 mm), NSMT-Cr 24231, 2015 年 4 月 29 日, 昆沙門定置網 (丸共丸), 宿主ヤリヌメリ *Repomucenus huguenini* (Bleeker, 1859). ant-pr, antennary process; cep-pr, 頭胸部突起; cep-thx, 頭胸部; eg-s, 卵嚢; nck, 頸部; thx-pr, 頸部突起; trk, 胴部.

備考 今回得られたヒジキムシ科カイアシ類は, 小さな antennary process をもつ; 頭胸部突起は 1 対で大きく発達; 胴部は「カシューナッツ」型; 卵嚢は螺旋状; 尾肢を欠く等の特徴を有し, Uyeno (2015) の検索表によりメダマイカリムシ属 *Phrioxocephalus* Wilson C.B., 1908 に同定された。本属は 13 種からなり (Walter, 2015), このうち本邦からは 11 種が知

られる (長澤・上野, 2014)。また, 頭胸部に発達する頭胸部突起が傘様に拡張し; 頸部突起は大きく, 樹根状に分岐する特徴が Shiino (1956) によるカサガタメダマイカリムシ *Phrioxocephalus umbellatus* の記載及び図に類似した。Shiino (1956) によれば, キシュウメダマイカリムシ *P. crassus* Shiino, 1956, クビオレメダマイカリムシ *P. curvatus* Shiino, 1956, クビナガメダマイカリムシ *P. longicollum* Shiino, 1956 の 3 種は本種に似るが, キシュウメダマイカリムシは antennary process の分岐が複雑で, 頭胸部突起の樹根状分枝と頸部突起の発達が劣る; クビオレメダマイカリムシは頸部が大きく反る; クビナガメダマイカリムシは頸部が長く, また頭胸部突起の樹根状分枝と頸部突起の発達が劣る点によってそれぞれ区別される。なお, 今回の産地からは, ホロヌメリ *Repomucenus virgis* (Jordan & Fowler, 1903) とネズブコ科の 1 種 *Callionymidae* gen. sp. を宿主とした, ミサキメダマイカリムシ *P. diversus* Wilson, 1917 が報告される (長澤・上野, 2014)。

謝 辞

貴重な標本収集にご協力いただいた, 丸共丸, みうら漁業協同組合の方々, ならびに本稿を御校閲いただいた, 上野大輔博士 (鹿児島大学大学院理工学研究科) に謝意を表します。

引用文献

- 長澤和也・上野大輔, 2014. 日本産魚類・鯨類に寄生するヒジキムシ科 (新称) Pennellidae カイアシ類の目録 (1916–2014 年). 生物圏科学, 53: 43–71.
- Ohtsuka, S., Harada, K., Miyahara, K., Nagahama, T., Ogawa, K., Ohta, T., 2007. Prevalence and intensity of *Phrioxocephalus umbellatus* (Copepoda: Siphonostomatoida: Pennellidae) parasitic on *Paralichthys olivaceus* in the western part of the Sea of Japan. *Fisheries Science*, 73: 214–216.
- Shiino, S. M., 1956. Copepods parasitic on Japanese Fishes 11. Genus *Phrioxocephalus*. *Report of the Faculty of Fisheries, Prefectural University of Mie*, 2(2): 242–268.
- 権野季雄, 1965. めだまいかりむし. 岡田 要・内田清之助・内田 亨監修, 新日本動物図鑑 (中), p. 500. 北隆館, 東京.
- Uyeno, D., 2015. Systematic revision of the pennellid genus *Creopelates* Shiino, 1958 (Copepoda: Siphonostomatoida) and the proposal of a new genus. *Zootaxa*, 3904 (3): 359–386.
- Walter, T. C., 2015. *Phrioxocephalus* Wilson C.B., 1908. In: Walter, T.C. & Boxshall, G. World of Copepods database. Accessed through: World Register of Marine Species at <http://www.marinespecies.org/aphia.php?p=taxdetails&id=347776> on 2015-06-13.

齋藤暢宏: 株式会社水土舎

山田和彦: 観音崎自然博物館・相模湾海洋生物研究会